

**審査結果報告書【SCSA】人工種苗生産者・養殖場**

認証事業者名	双日ツナファーム鷹島株式会社
認証番号	BV-KU-FA-0004
コントラクトNo	19076937
審査規格と基準	持続可能な水産養殖のための種苗認証(SCSA認証) 原則と基準 ver.2.2 -
書類審査(文書レビュー)日	2023年9月1日(金) - 2023年9月4日(月)
実地審査日	2023年9月4日(月) - 2023年9月7日(木)
審査受審者氏名	代表取締役社長 大西 啓之 様、営業部 部長 永田 正実 様、営業部 副部長 山岡 英樹 様、営業部 青木 一訓 様
審査員(主任)氏名	櫻井 輝喜
同行者	佐久間智恵子(レポート確認)

**審査総論**

本審査において不適合事項は検出されませんでした。認証の推薦をいたします。

**コメント**

(会社概要)  
 双日ツナファーム鷹島株式会社は、2008年に設立した本まぐろ養殖の専門メーカーです。長崎県松浦市鷹島の豊かな自然、恵まれた漁場を利用して、現在約4万尾の本まぐろを飼育しています。本まぐろは約3年半で平均50kg程度に育ち、鮮魚専門店や外食店向けに販売しています。  
 “鷹島まぐろ”としてブランド化しています。  
 資本金 1億円(株主:双日株式会社 100%)、従業員 約30名、年商 約20億円  
 人工種苗から育成された中間魚(ヨコワ)と、巻き網等で漁獲された天然のヨコワを養殖しています。人工種苗のまぐろは、全て、養殖後、GG出荷及び加工され特定ユーザーへ販売されています。天然のヨコワは、一部転売されるものがあります。扱ひ量は、90%以上が天然魚です。  
 養殖に関してのトレーサビリティシステムの構築、運用、SDGsの視点からSCSA認証を取得されています。

(総括)(※各項目の詳細は、チェックリストを参照ください)  
 ・SCSAの運用は、「食品安全及びサステナビリティ統合マニュアル第12版」(2023年8月22日)、各手順書に沿って実施され管理されていました。  
 ※「食品安全及びサステナビリティ統合マニュアル第12版」は、ISO22000:2018、ISO/TS 22002-1:2009、FSSC22000 ver.5.1、SCSA ver.2.2を統合したマニュアルになっています。  
 ver.1.4からver.2.2の移行も問題なく運用されていました。  
 ・養殖、出荷の管理データは、“管理日報(データベース)”にて詳細に記録されていました。  
 ・周囲の環境への影響の配慮は、適性な給餌、逃亡防止などで良く管理されています。  
 対象魚への魚類福祉面での取り扱い、最小限の医薬品の使用、取り上げ時、加工時の魚の取り扱いなど、こまめに実施されていました。

**1.種苗**  
 種苗の購入は、2018年魚までは、アーマリン近大から、2020年魚以降はツナドリーム沖縄から購入しています。  
 種苗購入は、1回/年です。種苗経歴証明書を手し、人工種苗であることの確認を行っていました。  
 種苗生産者(仕入先)、年産、購入日、生簀によりロット管理しています。  
 必要に応じDNA鑑定の情報提供ができる仕組みを作っています。

**2.対象人工種苗飼育管理**  
 養殖の段階で合体、分養を計画的に行っています。ロット単位で記録していました。  
 合体を行う場合は、同一種苗生産者から生産された種苗のみで行います。  
 種苗購入～出荷までのデータは、“管理日報(データベース)”にて詳細に記録されていました。  
 ロット管理(生簀単位)による識別・分別が確実に行われ、トレーサビリティも要求事項の数値基準も問題ありませんでした。  
 水産用医薬品は、適切に管理された上で使用しています。水産用医薬品の購入、投薬記録も、“管理日報(データベース)”に全て情報が入力されています。  
 逃亡対策として、生簀のすべてに高さ2mのジャンプネットの設置、潜水土による網破れの確認がされています。死亡魚の記録も行っています。  
 魚類福祉については、魚へのストレスや損傷を極力抑え適切な環境での飼育、出荷が実施されていました。  
 電気鍬の適切な使用は、魚へのストレスを大きく軽減する方法と評価します。(取り上げから船上でのメまで1分程でした。)

**3.環境配慮**  
 養殖施設は、区漁業免許状を取得しています。周辺の環境(近隣に工場、焼却場、ホテルはなく、良好な漁場環境が保たれる地域である。)も良好でした。  
 水温、DOなどを測定、記録し変化を確認できる状況が維持されています。  
 養殖施設付近における水質は、行政のテレメーター、アプリ(ウミミル)にて確認しています。養殖場の底質検査を1回/年実施していました。  
 適切な養殖管理がされていると評価できました。  
 死亡魚の取り扱ひは、冷凍保存の上、漁業協同組合に回収依頼していました。

**4.餌・飼料**  
 生餌、配合飼料を使用しています。信頼がおける飼料供給先から購入しています。生餌の使用量が多いです。  
 配合飼料は、安全証明書(品質証明書)を確認し保管しています。配合飼料は、安全証明書に、“食料安全法”に適合している内容が記載されていました。  
 1品目(シーミックス)のみ証明書がありませんでしたので、観察事項としました。  
 購入記録も全て保管されていました。給餌記録は“管理日報(データベース)”に全て情報が入力されています。  
 生餌は、冷凍庫(漁協)、配合飼料は、倉庫エリアに適切に保管されていました。  
 配合飼料の自動給餌機のテスト的使用を開始しています。増肉係数の目標を決め飼料の効率化を進めています。

5.食品安全  
 養殖施設は適切な水環境での飼育ができる環境です。(3.環境配慮参照)ネズミ等の衛生動物は確認されていません。  
 加工施設は、FSSC22000取得施設で衛生的に保持されています。使用する水は、上水を使用しています。  
 魚のトリミングに使用する水は、電解による弱酸性水(水温10℃位に冷却)を使用しています。  
 出荷対象魚、加工されたブロックは、お客様のニーズに応じ、加工後迅速に、冷蔵、氷冷、冷凍されます。

6.安全衛生・労務管理  
 労働安全衛生責任者は営業部長の永田様です。安全装備の着用、船舶やフォークリフトの点検は適切に行われています。  
 教育は、“養殖ミーティング”にて実施しています。安全を維持できる労働環境ですが、昨年審査以来、軽微な労働災害が6件発生しました。  
 “養殖ミーティング”にてヒヤリハットとして情報提供されています。  
 船舶、フォークリフトなどは、法的な点検や始業前点検など、安全な運用のため必要なことが適切に実施されていました。  
 ハラスメントの届け出対応は、従業員に“コンプライアンスカード”が配布され、ホットラインが明確にされていました。  
 審査を通して、職場の雰囲気は良く、コミュニケーションも良いと感じました。

7.社会経済的側面  
 外部組織からの情報入手や連携をしながら、法律遵守した運営がなされています。仕組みは、「食品安全及びサステナビリティ統合マニュアル第12版」(2023年8月22日)、各手順書で構築されています。教育では、手順書の理解促進も行っています。会社として常に向上・改善の風土を持ち、モニタリング、レビュー、見直しも適切に実施されていました。

torikumi

窓口担当者連絡先変更	無	新担当者名	-
------------	---	-------	---

認証事項変更	申請者名称	<input checked="" type="checkbox"/>	申請者住所	<input checked="" type="checkbox"/>	施設一覧	<input checked="" type="checkbox"/>
--------	-------	-------------------------------------	-------	-------------------------------------	------	-------------------------------------

審査時に確認、施設の用途、住所を明確にしました。(※以下参照)

変更前			変更後		
施設コード	施設名称	住所	施設コード	施設名称	住所
-	双日ツナファーム鷹島株式会社 管理事務所(養殖場)	〒859-4301 長崎県松浦市鷹島町阿翁浦免字鳥越824-1	-	双日ツナファーム鷹島株式会社 管理事務所(養殖場)	〒859-4301 長崎県松浦市鷹島町阿翁浦免字鳥越824-1
-	双日ツナファーム鷹島株式会社 加工場	長崎県松浦市鷹島町阿翁浦免桜原 県有地	-	双日ツナファーム鷹島株式会社 加工場	〒859-4301 長崎県松浦市鷹島町阿翁浦免桜原 県有地
			-	新松浦漁業協同組合 保管施設	〒859-4301 長崎県松浦市鷹島町阿翁浦免 826-6

最終報告日	2023/9/14	クライアントレビュー	2023/9/14	ピアレビュー	国立大学法人 東京海洋大学 原田 幸子氏 2023/10/25	パブリックコメント	
-------	-----------	------------	-----------	--------	--	-----------	--